

「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学文学部4年 齋藤 ゆずか

今回の派遣で最も成長できたのは、やはり語学の面です。そもそも今回の派遣には、来年度に国立台湾大学への部局間交換留学を予定しているため、中国語の能力を伸ばしたいという思いで申し込みをしました。最初、中級クラスにいたのですが、京大の他の派遣メンバーに誘われて上級クラスの見学に行きました。上級クラスでは全ての授業進行が中国語で行われていて、中級クラスとはかなりレベル差を感じたのですが、せっかく香港に来たのだからできるだけ中国語のシャワーを浴びられる環境に行きたい、と思い、不安はありつつも上級クラスを履修することにしました。授業についていくので必死でしたが、スピーチや作文で使える語彙や表現を豊富に学ぶことができたほか、先生が何度も口にする言葉から自然な中国語の表現を知ることができました。また、授業内で文化面についてたくさん触れてくださったので、現地に暮らす人から聞かなければ知ることができなかったようなことも、授業の中で伺いすることができました。発音はまだまだですが、なんとか知っている表現をつなげて話そうとすると先生は一生懸命聞いてくださいました。最終日に、このプログラムを通してあなたの中国語レベルは上がったと思うよ、と言ってくださったので、とても嬉しかったです。実際、帰国後には街や大学で聞こえる中国語の量が前と比べてかなり増えていました。後期は言語交換に挑戦する計画がすでにあり、これからも継続して努力したいと思います。

また、プログラムに参加したことで、京都大学や他大学の、中国語に関心の高い仲間に出会えたことも大変良かったです。九州大学や東京学芸大学、上智大学からの参加者とは帰国後も交流が続くような友人関係をつくることができました。京都大学からの参加者はレベル問わず非常に意欲的な人が多くて、同じクラスの友人たちは授業中も休み時間も先生にたくさん話しかけて、街中でも中国語を使おうとしていて、自分は喋ることがなかなかできないでいたので、大きな刺激を受けました。京都大学独自に行った現地の学生との交流会も、本当に満足できる内容でした。慣れない海外生活は自分にとっては決して楽ではなく、今後長期間の留学をして生活していけるのか不安になっていたのですが、偶然自分の専攻に近い歴史学科の学生との交流会で、彼らが本当に意欲的に私の専門の話聞いてくれて、問題意識を共有してくれたことが、留学のモチベーションを保つための大切な経験になりました。やはり東アジアで歴史を学ぶ学生の考えをもっと知りたい、と思いました。

行ってみるまであまり香港という場所に具体的なイメージをもっていませんでした。都会できらびやかな場所もあれば、住宅がひしめき合うナイトマーケットの通りがあり、移民労働者が集まってピクニックをしている高架下がありました。エスカレータのスピードがとても速くて、エアコンは温度が低すぎて、キャッシュレス決済が進んでいて、効率や便利さを追求しているところもあれば、通じない広東語とジェスチャーで蚊から身を守る手段を教えてくれる女性や、店先で猫をのんびりさせている店主がいて、実際に見てみると、すごく色々な顔をもつ街なのだと感じました。3週間という期間では、最初の1週間は旅行気分で、見るもの全てが新しくてわくわくするのですが、2週目以降は自分がどうやってそこに馴染んでいくのか考える段階に入るなと気が付きました。無理せず、時には香港に展開するおにぎりチェーンや日本食の学生食堂に頼りながら（思いがけず香港の日本イメージを知ることができました）3週間を乗り越えることが出来ました。

今後は、まず、卒業論文と大学院入試の勉強と両立させながら、留学準備としての中国語学習を進めていきたいです。7月中旬、本プログラムの事前語学授業の直後にHSK4級を受験し、合格することができたので、次は5級を今年度中に取得することを目標にしたいと考えています。